

# キリスト教保育

2024年1月1日発行 毎月1回1日発行 第658号

年主題

ともにつむぎだす  
～希望の中での～

卷頭言  
イエスさまから託された村人  
塩川成子

論説  
子どもとの暮らしの中で  
～何を大切にすべきなのかを考える～(2)  
本江理子

小論  
子どもの平和②  
公文和子



1

2024 JAN.

あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。

新共同訳聖書・使徒言行録5：38～39

今月の聖書の言葉は、ガマリエルという人（民衆全体から尊敬されていてパウロを教育した律法の教師）が、最高法院の議員たちに向かって語ったものです。

当時、ペテロとその仲間たちは「イエスがキリストである」ことを大胆に語っていました。ところが大祭司とサドカイ派の人々は、ペテロと他の使徒たちを捕まえ、最高法院の中に立たせると、大祭司は、宣教の禁止を厳しく命じるのです。しかし、使徒たちは「人間に従うよりも、神に従わなくてはならない」ことを主張します。これを聞いた人々は怒り、使徒たちを死刑にしようと考えている時に、このガマリエルが、賢明な制止の一つとしてスピーチするのです。聖書は、巧みな語り口によって、行間にある思考を注意深く読み取らせようとしています。人間から出たものか、それとも神から出たものか、という相対立する事柄を問題にしています。

「あの者たちから手を引きなさい。ほっておくがよい」という聖書の言葉の意味は、当分の間ほうっておきなさい、待ちなさい、何が起こるか見なさい、ということでしょう。彼らは、待つ方法（待ち方）を知っているのです。彼らは、深く根ざした信頼を何処かに持っているからです。私たちは、何事にも待つ方法を知らないとは思いませんか？保育実践においては、どうでしょうか？

新しい年を迎えて、私たちは「心構え」「計画」に挑戦したくなるものです。箴言16:1、16:9、4:26の聖書の言葉からは、自分の心には、多くの計画が立つけれど、神が最後の言葉を持っておられるということが、よくわかります。

『キリスト教保育指針』（キリスト教保育連盟1989）の「キリスト教保育と保育者」という項目の最後のページに「神に委ねる勇気」について書かれています。私たちは、保育計画・指導計画にも工夫を凝らして、保育実践をしています。保育は、労苦と忍耐の多い働きであるために、自分の働きと錯覚してしまいます。私たちの保育は、それを神に委ねてこそ、キリスト教保育となり得るのです。

(宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長)

1990年『キリスト教保育』誌1月号より

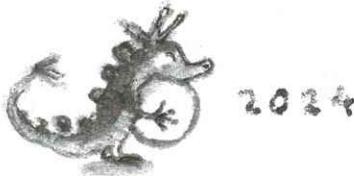
# キリスト教保育

第658号 1月号

年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～



幼子とともにキリストへ  
目次

〈巻頭言〉

イエスさまから託された村人 塩川成子

〈論説〉

子どもとの暮らしの中で――何を大切にすべきなのかを考える―― 本江理子

図書紹介

児玉芽 萌出由喜子

〈小論〉 こどもの平和 公文和子

聖書に聞く・お話 山本香織

【カリキュラム】

1月 月のねがい表

心にとめて 西川恵

実践報告 るうてる愛育園

実践からの学び 久保小枝子

心にとめて 国府田郁絵

実践報告 天童みくに幼稚園

実践からの学び 岡田直美

私たちの園では 松隈 協

3 2

4

20 16 15 6

総本のとびら 山口真紀

〈連載〉 子どもの健康 丸尾敏之

子どもの祈り

礼拝のお話 西嶋佳弘

子どもと賛美するためには

目福口福耳福 中川晶子

風 山根由美子

編集子 赤木敏之

連盟だより

カット 中畠治子 こだいみのり

松成真理子 金井ユリ

表紙絵 田中横子

46

45

42

41

40 39 34 32 31 26 24 23

